

2011. 4. 10

# 連絡調整円滑化へ

## アマ無線で被災地支援

### 愛好家有志 室根山頂に基地局

アマチュア無線で東日本大震災の復興支援に關する情報を共有することで、ボランティア団体などの連絡調整を円滑化し、速やかに支援の手が差し伸べられるように、一関市東部に位置する室根山（895㍍）山頂付近に、沿岸部をはじめ広域をカバーする基地局が開設された。県内外のアマチュア無線愛好家らの尽力で実現。併せて被災地へトランシーバーを配布するなどしている。



きらら室根山天文台に設置したレピータ装置など、資器材を確認するアマチュア無線愛好家ら

同市東山町のひがしやま病院の岡崎宣夫医師の呼び掛けに、アマチュア無線盛岡クラブ有志をはじめ東京都や高知県などの愛好家らが応じ、市災害対策本部と日本アマチュア無線連盟の協力で実現にこぎ着けた。山頂付近のきらら室根山天文台内にアマチュア無線用中継器（レピータ装置）を設置。2日に運用を開始し、利用へ向けて周知を図っている。

半径200㍍圏内に機能するといひ、内陸部では、盛岡市から福島市までの利用を確認した。一方、いまだ情報網の整わない岩手、宮城両県沿岸部の被災地を中心に同連盟からハンディー型トランシーバー約300台が配布され、沿岸部でも今後利用が拡大するとみられる。

アマチュア無線は一度に多くの人へ情報を伝達し、双方方向通信できるのが特徴。岡崎医師は「これから多くのボランティア団体が被災地で復興支援を行うとみられるが、現地で何が求められているのか的確に把握し、団体の重複などを避けて活動できるように、ぜひ無線を役立ててほしい」と、可能な場合は無線機持参で被災地入りするよう呼び掛けている。

被災地からの情報発信の手段はごく限られ、アマチュア無線の利用拡大に伴って、物資調達や人材の派遣など、現地が必要としている支援を適時に把握し、関係機関・団体が連携して迅速に対応できるものと期待されている。

一方、室根山への基地局開設に合わせ、同病院内に「無線ボランティアセンター」も設置。資格者らボランティアによる運営で、円滑な通信を維持していく。レピータ周波数は439.44メガヘルツ、トーンは88.5メガヘルツ、コールサインはJPF7YEP。